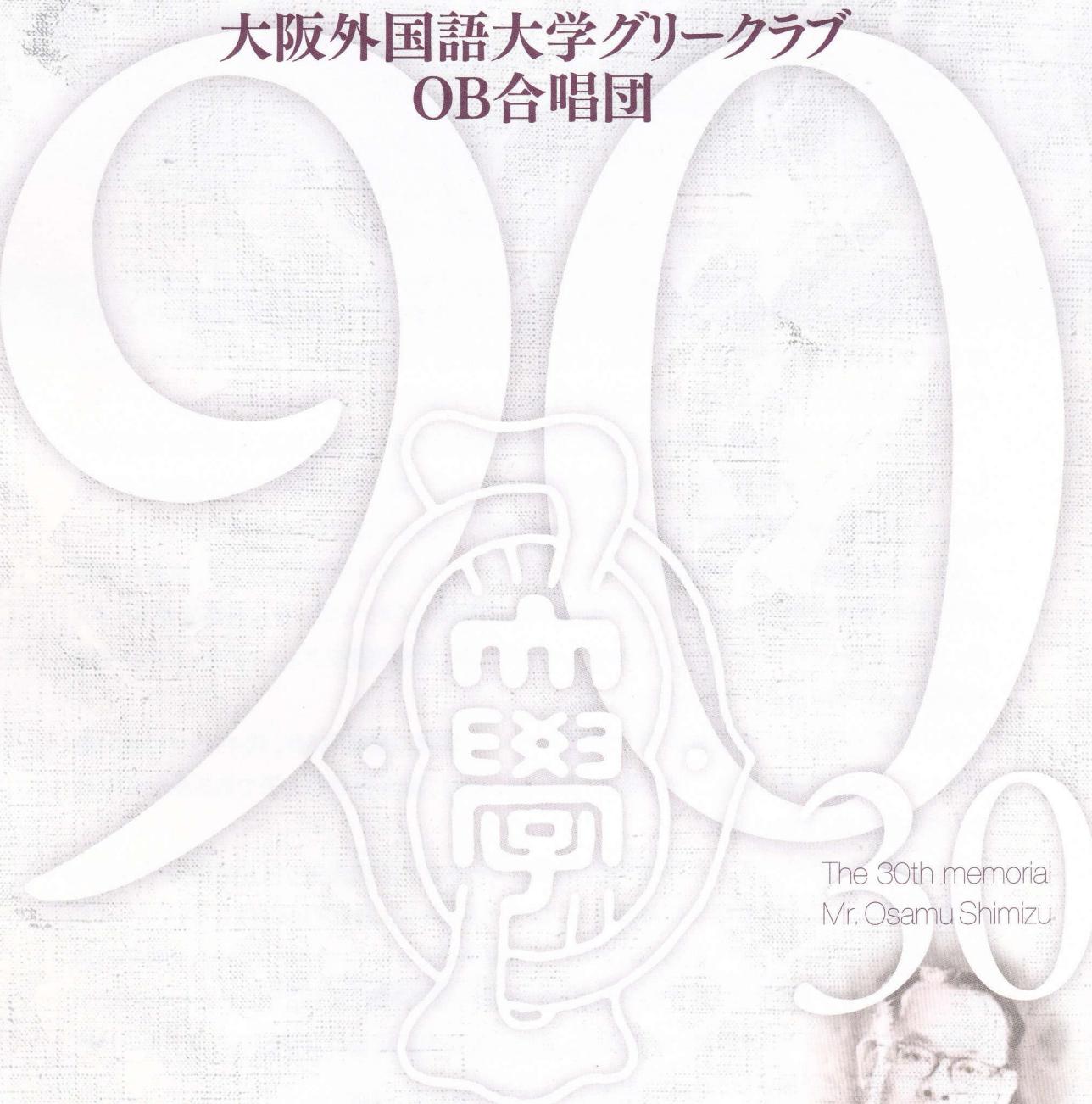


大阪外国語大学グリークラブ 創部90周年記念演奏会

大阪外国語大学グリークラブ
OB合唱団



The 30th memorial
Mr. Osamu Shimizu



清水 岣 1911-1986

作曲家。全日本合唱連盟第4代
理事長。「月光とピエロ」ほか多
くの作品を残した男声合唱作曲
の第一人者。大阪外国語大学
グリークラブ第5代団内指揮者。

2016年 12月3日(土) 13:00開場
13:30開演
かつしかシンフォニーヒルズ モーツアルトホール

ご挨拶

本日はお忙しい中、大阪外国語大学グリークラブ創部90周年記念演奏会にご来場いただきまして誠に有難うございます。

大阪外国語大学グリークラブの誕生は90年前の1926年に遡ります。団員の減少から1998年に廃部となりましたが、同年東京で、そして2001年には大阪でOB合唱団が結成され、現在では大阪、名古屋、関東地区を合わせて55名を超える陣容となっています。東京では、1998年に学生時代からヴォイストレーナーとしてご指導いただいた林誠氏（当時大阪音楽大学教授）に指導をお願いし、2002年からは同氏の紹介により二期会の小貫岩夫氏を指導者に迎え、また、大阪では2003年に同じく林誠氏に指導者として再登場いただき、東西で本格的な合唱を行っています。

今年は創部90周年であり、かつ私たちのクラブの大先輩であり、著名な作曲家である清水脩の没後30周年の年でもあることから、この二つを記念する演奏会を、各地（国内外）のOB約80名が結集し、大阪（11月13日）と東京（12月3日）で開催することになりました。

東京公演では大阪男声合唱団（大阪大学男声合唱団OB合唱団）東京支部に贊助出演をしていただきます。大阪外国語大学が2007年10月1日に大阪大学と統合したことから、OB合唱団も合同演奏や贊助出演などの交流を行っており、今回もご協力をいただきました。

また、当合唱団メンバーが懇意にさせていただいている、男声合唱団フロイデ、東京六甲男声合唱団、男声合唱団ハートストリングス、男声合唱団「タダタケを歌う会」、日商岩井コーラス部、マーキュリー・グリー・クラブ、メンネルコール広友会、慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団からも贊助出演していただきました。

本日のプログラムは、大阪外国語大学にふさわしい世界の愛唱歌8曲、代々クラブで歌い継がれてきた黒人靈歌、さらに、清水脩の「月光とピエロ」、清水脩の教え子である多田武彦氏の「柳河風俗詩」を歌います。

また、うれしいことに、私たちの指導者、指揮者である小貫岩夫先生と坂井美樹先生のお二人が、創部90周年記念演奏会のお祝いとして、オペレッタの名曲をプレゼントしてくださいます。

ステージのバラエティや人数はこれまでにない演奏会となっています。団員の平均年齢はかなり高いのですが大いに歌い、歌った後は楽しく語り合う仲間として活動をいたしております。希望に溢れた青春の日々の思い出を胸に、長い人生の中で培われた情感を込めて大いに歌いますのでどうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

2016年12月

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団
東京幹事代表 西川哲朗

この記念演奏会開催にあたり、作曲家の多田武彦先生から、お祝いのメッセージをいただきました。先生が師と仰ぐ清水脩氏の「月光とピエロ」とともに自作の「柳河風俗詩」が歌われると知って、自ら「原稿を書かせていただく」と申し出があり、直筆のサイン入りで400字詰め原稿用紙3枚に綴られたメッセージをいただきました。名曲「柳河風俗詩」が生まれたいきさつ、清水脩氏との交流の様子が微笑ましく描かれており、団員一同、心温まる内容に感動しました。全文を掲載させていただきます。

メッセージ

多田武彦

大阪外国語大学グリークラブの創部90周年、誠にお目出とうございます。また、その栄ある記念演奏会に私の作品を採り上げて頂き、厚く御礼を申し上げます。

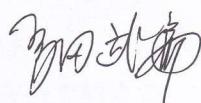
貴グリークラブご出身の大作曲家清水脩先生とは、私がまだ旧制京都大学の二回生の折、組曲「月光とピエロ」を歌わせて頂いたのを機に、先生から数々のご叱責ご薰陶を賜り、音楽の上のみならず、勤務先の仕事「専ら融資先の再建・とりわけ従業員やその家族を路頭に迷わせるような人員整理をしない」に傾注した際にも、秀い出た宗教家としての先生から頂いたご教導の数々や、寺社建築の奥義に関する多くのご研究成果を拝聴したことなど私の受けた恩義は実に深遠でありました。

折角の機会ですので、これらの事を、エピソード風に記述することを、お許し下さい。「月光とピエロ」を歌って間もなく、先生から、「作曲の基礎を教えるため月一回来阪して数人の生徒に教えているが、君も来るか」と言って頂き、喜んで参加しました。私が最後の順番だった日、先生から夕食に誘われ、その店の個室で食事の後、急に先生の表情が厳しくなり、「学習時の心得」が伝えられました。

1. 褒め言葉には嘘が多い。褒められて喜んでいるようでは、その瞬間に進歩は止まる。
2. 一方、君に対する非難・誹謗・罵詈雑言には真実の忠告があるから、これらを謙虚に受け止めろ。
3. 自作に惚れこんだり、自己宣伝をするな。良い作品を書けば、出版されていなくても、歌ってくれる人々は、楽譜を探し、愛唱してくれる。
4. 所詮、君は、まだまだこの道での「ど素人」だ。
5. 当面は大正から昭和にかけて作られた日本近代抒情詩から「春夏秋冬・花鳥風月・喜怒哀樂・起承転結」が巧みに織り込まれている詩を選び、西洋音楽の作曲・指揮・演奏に必要な「構築性4項目(リズム・メロディー・ハーモニー・楽式論)」と「装飾性2項目(ディナーミク・フレージング)」と「声区の移動」に考慮して詩を決めろ。
6. これらについては実践的教科書は無いので、例えば、カール・ベーム指揮、ウィーン交響楽団の名作・名演を最低百回聴け。スポーツと同様、50回目から、様々な事柄が判ってくる。
7. 今から1ヶ月の間に習作としてのア・カペラ男声合唱を書いてこい。

との指示がありました。

こうして出来上がったのが、組曲「柳河風俗詩」です。先生は、「作曲技術は未熟だが、小学一年の時から培った日本の多くの古典芸術による組曲の構成力は見事だ。しかし褒め言葉には嘘があるぞ」と初めて微笑まれました。



Gaigo Will Shine Tonight / Varsity / 大阪外国語大学学歌

ステージⅠ 男声合唱組曲「柳河風俗詩」 指揮: 小貫岩夫 [賛助出演ステージ]

作詩: 北原白秋 / 作曲: 多田武彦

1. 柳河
2. 紺屋のろく
3. かきつばた
4. 梅雨の晴れ間

ステージⅡ 黒人靈歌 指揮: 坂井美樹 ピアノ: 多田聰子 朗読: 杉山尚子

1. Soon Ah Will Be Done
編曲: William L.Dawson
2. Didn't My Lord Deliver Daniel?
編曲: 福永陽一郎
3. Go Down Moses
編曲: 福永陽一郎
4. The Battle of Jericho
編曲: Marshall Bartholomew
5. Ride The Chariot
編曲: 福永陽一郎

ステージⅢ 世界の愛唱歌 (歴代指揮者メドレー)

1. ともしび (ロシア) ————— 指揮: 山田道教 (平成7年卒)
作詞: M. Isakovsky / 作曲: 不詳
2. Finlandia Hymni (フィンランド) ————— 指揮: 坂居孝二 (昭和62年卒)
作詞: V. A. Koskenniemi / 作曲: J. Sibelius
3. Ständchen (ドイツ) ————— 指揮: 小林卓郎 (昭和60年卒)
作詞: Wolff / 作曲: A. E. Marschner
4. Freie Kunst (ドイツ) ————— 指揮: 中津孝司 (昭和59年卒)
作詞: L. Uhland / 作曲: J. H. Stundz
5. Shenandoah (アメリカ) ————— 指揮: 石原 守 (昭和57年卒)
アメリカ民謡 / 編曲: Marshall Bartholomew
6. Annie Laurie (スコットランド) ————— 指揮: 北村照夫 (昭和57年卒)
作詞: W. Doughlas / 作曲: J. D. Scott
7. Bengawan Solo (インドネシア) ————— 指揮: 池田民樹 (昭和50年卒)
作詞・作曲: Gesang Martohartono
8. U Boj (クロアチア) ————— 指揮: 西村信勝 (昭和42年卒)
作詞: F. Morkovic / 作曲: L. P. Zajc

(休憩)

ステージIV **オペレッタの散歩道** テノール: 小貫岩夫 ソプラノ: 坂井美樹 ピアノ: 多田聰子

1. 『こうもり』より「公爵様、もっとよく見て」
作曲: J. Strauss II
2. 『微笑みの国』より「君こそわが心のすべて」
作曲: F. Lehár
3. 『ウィーン気質』より「とても許せないわ」
作曲: J. Strauss II
4. 『メリーウィドウ』より「メリーウィドウ・ワルツ」
作曲: F. Lehár

ステージV **男声合唱組曲「月光とピエロ」** 指揮: 小貫岩夫 [賛助出演ステージ]
作詩: 堀口大學 / 作曲: 清水脩

1. 月夜
2. 秋のピエロ
3. ピエロ
4. ピエロの嘆き
5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

プロフィール



小貫岩夫 *Iwao Onuki* (テノール)

北海道出身。同志社大学卒業。同志社グリークラブに所属し、福永陽一郎指揮のもと数々のステージで活躍。その後大阪音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第11期修了。数々のコンクールで優勝・入選する。95年「魔笛」タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムと共演しデビュー。翌年ドイツ・ケムニッツ市立歌劇場より招聘を受け同役で出演し、地元紙より好評を得る。98年より文化庁派遣でミラノへ留学。2000年新国立劇場デビューを飾ったのち、様々な舞台で活躍。2013年には天皇皇后両陛下御親覧の舞踏会で御前演奏を行い、お言葉を頂いた。二期会会員。



坂井美樹 *Miki Sakai* (ソプラノ)

大阪音楽大学音楽学部声楽専攻首席卒業。大阪音楽大学大学院オペラ研究室修了。1999年にイタリアミラノに留学。モーツアルト作曲オペラ「フィガロの結婚」のスザンナ役の他、様々なオペラに出演。特に故岩城宏之指揮、黛敏郎作曲のオペラ「金閣寺」(女役)は東京・大阪で公演され、全国放映された。また桂小米朝(現5代目米團治)とともにオペらくごにも出演。その他多くのコンサートに出演。細川維、高須礼子、田原祥一郎、ブルーノ・ダル・モンテ、ビアンカ・マリア・カゾーニ、田中千都子の各氏に師事。二期会準会員。



多田聰子 *Satoko Tada* (ピアノ)

東京芸術大学附属音楽高校を経て同学器楽科ピアノ専攻卒業。在学中より著名な演奏家と共に演を重ね、卒業年度より同学声楽科にて伴奏助手を務める。NHK総合テレビ、NHK-FMなど音楽番組への出演多数。第30回イタリア声楽コンクールでは表彰式にて特別招聘審査員マルチエロ・アッバード氏より異例の賛辞を受けた。錦織健の伴奏者としては日本全国で200回以上共演。東京芸術大学非常勤講師。



杉山尚子 *Hisako Sugiyama* (朗読)

津田塾大学卒業後、会社勤めの傍ら、ミュージカルの自主制作や、ナレーション、朗読活動などを行っている。主な出演「新宮由理ソロコンサート」(2014年、2015年)、「六所の森クラシックコンサート」、カルメンナレーション(2016年)、等。

曲目解説

ステージI 男声合唱組曲「柳河風俗詩」

作曲者多田武彦は1930年大阪生まれ。京都大学卒業の1953年に全日本合唱コンクール課題曲募集に応募した「柳河」が佳作に入選。男声合唱組曲「柳河風俗詩」の初演は、1954年に京都大学男声合唱団によって行われました。

男声合唱組曲「柳河風俗詩」は、北原白秋(1885年-1942年)の抒情小曲集「思ひ出」(1911年刊行)の最後に収められ、白秋が幼少年時代を過ごした郷里・水郷柳河を描いた「柳河風俗詩」(全48篇)から選ばれた4編の詩で構成されています。

数多くの合唱組曲を生み出している多田武彦が手掛けた最初の合唱組曲であり、清水脩が作曲についての指導助言を行っています。

1. 柳河

もうし もうし 柳河じや 柳河じや
かね 銅の鳥居を見やしやんせ
欄干橋を見やしやんせ
(馴者は喇叭の音をやめて 赤い夕日に手をかざす)
薊の生えた その家は その家は
奮いむかしの遊女屋 人も住まわぬ遊女屋
裏の BANKO に居る人は……
あれは隣の継娘継娘
水に映ったそのかげは そのかげは
母の形見の小手鞠を 小手鞠を
赤い毛糸でくるのぢや
涙片手にくくるのぢや
もうし もうし 旅のひと 旅のひと
あれ あの三味をきかしやんせ
にわ 鳩の浮くのを見やしやんせ
(馴者は喇叭の音をたてて 赤い夕日の街に入る)
夕焼小焼け 明日天気になあれ

2. 紺屋のおろく

にくいあん畜生は紺屋のおろく
猫を擁へて夕日の浜を 知らぬ顔してしゃなしやなと
にくいあん畜生は筑前しほり
華奢な指先濃青に染めて 金の指輪もちらちらと
にくいあん畜生が薄情な眼つき
黒の前掛 毛繻子かセルか 博多帯しめ からころと
にくいあん畜生と 拥へた猫と
赤い入日にふとつまされて 鴻に陥って死ねばよい
ホンニ ホンニ……

3. かきつばた

柳河の古きながれのかきつばた
昼は ONGO の手にかをり
夜は萎れて 三味線の 細い吐息に泣きあかす
(鳩のあたまに火ん點いた潜んだと思うたらちい消えた)

4. 梅雨の晴れ間

廻せ 廻せ 水ぐるま
けふの午から忠信が 隅取紅い しゃつ面に
足どりかろく 手もかろく 狐六法踏みゆかむ
花道の下 水ぐるま……
廻せ 廻せ 水ぐるま 雨に濡れたる古むしろ
まる 円天井のその屋根に
青い空透き 日光の
七宝のごときらきらと
化粧部屋にも笑ふなり
廻せ 廻せ 水ぐるま
梅雨の晴れ間の一日を
せめて楽しく浮かれよと 廻り舞台も滑るなり
水を汲み出せ その下の 葱の畑のたまり水
廻せ 廻せ 水ぐるま
だんだら幕の黒と赤
すこしかかげて なつかしく
おやま 旅の女形もさし覗く
水を汲み出せ 平土間の 田舎芝居の葦畑
廻せ 廻せ 水ぐるま
はやも昼から忠信が 紅限とった しゃつ面に
足どりかろく 手もかろく 狐六法踏みゆかむ
花道の下 水ぐるま……

ステージⅡ 黒人靈歌

「黒人靈歌、それは一言で言うならば、奴隸生活の苦しみと孤独の中で、キリスト教信仰に目覚めた彼ら(黒人たち)が、救済への願いを込めて歌った歌である」(小川洋司『深い河のかなたへ—黒人靈歌とその背景—』)と記述されているように、黒人靈歌は、アフリカ各地から奴隸としてアメリカに強制的に移住させられた黒人たちの「心の叫び」ともいえる音楽です。

また、ウエルズ恵子はその著書『黒人靈歌は生きている—歌詞で読むアメリカー』のなかで、「黒人靈歌の作者たちは、墓場以外に安心して眠る場所を持たず、月から血が流れるのを幻視する人々だった。文字は読めず、故郷もなく、説教者から聴く聖書の話を神話のように言い伝え、歌い継いでいた。(中略) 罪深いのでこのように苦しい人生を送らなければならぬと、奴隸たちは教え込まれていた。罪をあがなって死ぬときが来れば、イエスが迎えに来てくれて天国へ行ける、やっと楽になるのだと、それだけを唯一の希望として生きていたようだ」と述べています。

したがって、黒人靈歌の歌詞は聖書を題材にしたものが多く、「安心できる家、孤独から免れる家、魂の家である天国、終わりのない休息がある家」をひたすら求めて「もう帰るよ」「もうじき帰れる」「きっと帰れる」と歌います。

黒人靈歌は代々口移しに伝えられたものなので楽譜もなく、もともとは極めて素朴な歌だったのですが、1871年に結成されたアフリカ系アメリカ人で構成されたアカペラ・グループのフィスク・ジュビリー・シンガーズ(Fisk Jubilee Singers)が黒人靈歌を歌って大変な評判となり、その後、米国の大学合唱団やロジェワグナー合唱団など多くの合唱団に歌われ、今日に至っています。

大阪外国語大学グリークラブは創部以来黒人靈歌を歌い続けており、大切なレパートリーのひとつとなっています。特に、戦後の定期演奏会においては、第1回から最後となった第41回まで、毎回欠かさず黒人靈歌を歌い続けてきました。記録に残るだけでも70曲を越える数多くの黒人靈歌を歌ってきた大阪外国語大学グリークラブですが、本日のコンサートでは団員へのアンケートで特に人気の高かった、未来へ歌い継いでいきたい5曲を選んでみました。

1. Soon Ah Will Be Done

「もうすぐ終わりが来る」というこの歌は、つらく苦しい奴隸としての人生が死とともに終わり、神とともに住むために天国に帰る」と死後への希望を歌います。速いテンポながら短調で歌うのは「この世の苦しみ」を表し、それが最後に長調に転じて終わるのは「天国への希望」を表現しているのではないでしょうか。

Soon ah will be done a-wid de troubles ob de worl',
Troubles ob de worl', de troubles ob de worl'
Soon ah will be done a-wid de troubles ob de worl',
Goin' home t'live wid God.

I want t'meet my mother, I want t'meet my mother,
I want t'meet my mother, I'm goin' t'live wid God.

No more weepin' an'a wailing, no more weepin' an'a wailing,
No more weepin' an'a wailing, I'm goin' t'live wid God.

Soon ah will be done a-wid de troubles ob de worl',
Troubles ob de worl', de troubles ob de worl'

Soon ah will be done a-wid de troubles ob de worl',
Goin' home t'live wid God.

I want t'meet my Jesus, I want t'meet my Jesus,
I want t'meet my Jesus, I'm goin' t'live wid God.

もうすぐこの世の苦しみは終わる
この世の苦しみ、この世の苦しみ
もうすぐこの世の苦しみは終わり
神様と一緒に暮らすのだ

かあさんに会いたい、かあさんに会いたい
かあさんに会いたい、神様と一緒に暮らすのだ

もう泣いたりわめいたりすることもない
もう泣いたりわめいたりすることもなく
神様と一緒に暮らすのだ

キリストに会いたい、キリストに会いたい
キリストに会いたい、神様と一緒に暮らすのだ

2. Didn't My Lord Deliver Daniel?

この歌は、旧約聖書の「ダニエル書」「ヨナ書」の記述をもとにしています。ネブカドネザル王によってライオンの洞窟に投げ込まれた預言者ダニエル、高熱の炉に投げ込まれた3人の若者たち(シャデラク、メシャク、アベデネゴ)、そして、大魚に飲み込まれた預言者ヨナを無傷で救出された神が、私たちを救出されないはずはない、と歌います。

Didn't my Lord deliver Daniel,
deliver Daniel, deliver Daniel?
Didn't my Lord deliver Daniel,
an'-a why not- every man?
He delivered Daniel from the lion's den,
Jonah from the belly of the whale;
The Hebrew children from the fiery furnace,
An'-a why not-a every man.

我が主はダニエルを救ったではないか
どうして万人を救わないことがあろうか
彼はダニエルをライオンの洞窟から救い出し
ヨナを鯨の腹の中から
ヘブライ人の若者たちを燃えさかる炉から
救い出したではないか
どうして万人を救わないことがあろうか

3. Go Down Moses

旧約聖書の「出エジプト記」に記述されている預言者モーセによるイスラエル人のエジプトからの脱出がテーマとなった歌です。様々な厄災が次々天から降り注ぎ、モーセはその度に「我が民を解き放て」という神の言葉をエジプト王ファラオに告げます。それでも、イスラエル人を解放しようとしている頑ななファラオ。じりじりとしたやりとりを淡々と聖書は記述しますが、黒人奴隸たちはそれに自らの境遇を重ね合わせ、そして、出エジプトのカタルシスに想いを馳せたことでしょう。

When Israel was in Egypt's land,
Let my people go!
Oppress'd so hard they could not stand,
Let my people go!
Go down Moses, Way down in Egypt land,
Tell ole Pharaoh, Let my people go! (Hallelujah)
Thus saith the Lord, bold Moses said,

Let my people go! (Hallelujah)

If not, I'll smite your first-born dead, (Hallelujah)
Let my people go!
Go down Moses, Way down in Egypt's land,
Tell ole Pharaoh, Let my people go!

イスラエル人がエジプトの地にあった時
ひどい圧迫に耐えられなかった
行け、モーセよ、はるかエジプトの大地を
頑なな王ファラオに告げるのだ
我が民を解き放てと(ハレルヤ)
「主はこう言われる」と勇敢なるモーセは言った
(我が民を解き放て)(ハレルヤ)
「さもなくば、汝の初子を殺すだろう」と
(我が民を解き放て)(ハレルヤ)
行け、モーセよ、はるかエジプトの大地を
頑なな王ファラオに告げるのだ
我が民を解き放てと

4. The Battle of Jericho

モーセの後継者ヨシュアは、約束の地カナンを目前にして、難攻不落の城砦都市エリコにその行く手を阻めます。そこで、神の加護を得たヨシュアがエリコの町を攻め落とすという有名な「エリコの戦い」を描いた旧約聖書「ヨシュア記」6章をもとにした歌です。ヨシュアの軍勢がラッパを吹きならし、一斉に叫ぶと、城壁が一気にガラガラと崩れ落ちるドラマチックな情景を描いています。

Joshua fit the Battle of Jericho, Jericho, Jericho.
Joshua fit the Battle of Jericho and the walls come tumblin' down.
Talk about your king of Gideon, talk about your men of Saul,
But none like good old Joshua at the Battle of Jericho.
Right up to the walls of Jericho, he marched with
spear in hand.
"Go blow that ram-horn" Joshua cried, "cause the
battle am in my hand"
Then the lamb, ram, sheep horns begin to blow
and the trumpet begins to sound.
Joshua commanded the children to shout!
and the walls come tumblin' down.
Joshua fit the Battle of Jericho and the walls come tumblin' down

ヨシュアは攻めたり、エリコ、エリコ、エリコ
ヨシュアは攻めたり、エリコ、崩れ落ちる城壁
ギデオンの王や、サウルの話も良いが
なんてったってヨシュアさ
攻め落とせエリコ
エリコの城壁めがけ、槍持て進みヨシュアは叫べり
「民よ。角笛を吹き鳴らせ」
角笛鳴りわたり、ラッパも高鳴り
沸き起る闘^{とき}の声に 崩れ落ちる城壁
ヨシュアは攻めたり、エリコ、エリコ、エリコ
ヨシュアは攻めたり、エリコ、崩れ落ちる城壁

5. Ride The Chariot

イスラエルの信仰を守るために異教バアルと戦った預言者エリアを、神エホバが火の戦車に乗せて天に召し上げられるという旧約聖書「列王記Ⅱ」2章11節に記述されている「戦車」(chariot)を題材にした歌です。黒人奴隸たちは、エリアを召された戦車を天国に行く乗り物として捉え、戦車に乗って主のいる天国に行こうと歌います。

Ride the chariot in the mornin' Lord
Ride the chariot in the mornin' Lord
I'm getting ready for the judgment day
My Lord, my Lord
Are you ready my brother
(Oh yes my Lord)
Are you ready for the journey
(Oh yes my Lord)
Do you wanna see my Jesus
(Oh yes) I'm waiting for the chariot
'Cause I'm ready to go

Ride the chariot in the mornin' Lord
Ride the chariot in the mornin' Lord
I'm getting ready for the judgment day
My Lord, my Lord
Are you ready my sister
Are you ready for the journey
Do you wanna see my Jesus
(Oh yes) I'm waiting for the chariot
'Cause I'm ready to go

I never can forget that day
When all my sins were taken away
My feet were snatched from the miry clay
I'll serve my Lord till judgment day

Ride the chariot in the mornin' Lord
Ride the chariot in the mornin' Lord
I'm getting ready for the judgment day
My Lord, my Lord

朝になったら戦車に乗ろう、主よ
朝になったら戦車に乗ろう、主よ
審判の日への支度はもうすぐできます
わが主よ、わが主よ
「用意はいいかね、兄弟よ」
「用意はいいかね、姉妹よ」
「ああいいとも」
「旅の支度はできたかね」
「できたとも」
「イエス様にお会いしたいかね」
「もちろんですとも、支度ができた
戦車を待っているんです」

私は決してあの日を忘れない
(主に会うために戦車に乗ろう)
私のすべての罪がぬぐい去られた時に
(主に会うために戦車に乗ろう)
私の足が泥だらけのところから放たれた
(主に会うために戦車に乗ろう)
私は審判の日まで主にお仕えします
(主に会うために戦車に乗ろう)

朝になったら戦車に乗ろう、主よ
審判の日への支度はもうすぐできます
わが主よ、わが主よ
朝になったら戦車に乗ろう、主よ
主に会うために戦車に乗ろう

(注)和訳と各曲の解説は小川洋司(2001)『深い河のかなたへ—黒人靈歌とその背景—』から引用しています。



ステージⅢ 世界の愛唱歌

創部90周年記念演奏会を迎えるに当たり、90周年らしいものをとの思いから企画したステージです。外大らしく世界の様々な言語で歌いたい、そして90年を振り返る意味で学生時代に戻って歴代の団内指揮者に指揮をしてもらいたい、との思いをこのステージに込めています。演奏曲目としては、学生時代からよく口ずさんでいた「世界の愛唱歌」を8曲選びました。それぞれ、ロシア語、フィンランド語、ドイツ語、英語、インドネシア語、クロアチア語でお届けします。

今回のステージには、昭和42年卒業から平成7年卒業までの8名の団内指揮者が登場します。

1. ともしび（ロシア）

第2次世界大戦中に、戦地に行く若者とその恋人との別れを綴った曲で、1942年に発表されたミハイル・イサコフスキイの詩に基づいています。当時、ソビエト連邦の多くの人々に親しまれた曲です。日本でも昭和30年代から40年代にかけてブームとなった「歌声喫茶」で最も歌われた曲のひとつです。

夜霧のかなたへ 別れを告げ
雄々しきますらお 出でていく
窓辺にまたたく ともしびに
つきせぬ乙女の 愛のかげ
(訳詞 楽団カチューシャ)

2. Finlandia Hymni（フィンランド）

フィンランド出身の作曲家ジャン・シベリウスによる交響詩「フィンランディア」の一部のメロディに、愛国的な歌詞をつけてアカペラの合唱曲として編曲されたのが「フィンランド賛歌」です。この曲は、1941年のソビエト連邦との戦いの際に作られ、フィンランドでは第二の国歌とも言われ、広く国民に親しまれています。

おお、スオミ（フィンランド国民の自称）
汝の夜は明け行く 闇夜の脅威は消え去り
輝ける朝にヒバリは歌う
それはまさに天空の歌
夜の力は朝の光にかき消され
汝は夜明けを迎える 祖国よ

おお立ち上がりスオミ 高く掲げよ
偉大なる記憶に満ちた汝の頭を
汝は世に示した 抑圧に屈しなかった汝の姿を
汝の夜は明けた 祖国よ
(日本語訳は Chorus-song.com より引用)

3. Ständchen（ドイツ）

アドルフ・マルシュネル(1819-1853)作曲のこの曲は、戦前から多くの男声合唱団に親しまれ、男声合唱経験者であれば一度は歌ったことがある曲です。日本題は「小夜曲」ですが、男性が恋する女性の窓の下に立って歌う美しいセレナーデです。

あなたはなぜそんな遠くにいるの 私の愛しい人よ
星は優しく光っています 私の愛しい人よ
月は静かに輪を描きながら もう傾いています
おやすみ私の最愛の人 おやすみ私の最愛の人よ

私は森の中を彷徨い 月の光に嘆いています
おやすみ私の最愛の人 おやすみ私の最愛の人よ
(翻訳 当合唱団)

4. Freie Kunst（ドイツ）

19世紀前半にヨセフ・スタンツによって作曲され、自由な芸術・青春を讃え、恋を歌う学生歌として広く愛された曲です。日本では男声合唱曲の愛唱歌として大学の合唱団を中心に、時代を超えて歌い継がれています。

歌え ドイツ詩聖の森の中で
歌を授けられた者に向けて!
全ての枝から 歌が鳴り響けば
それは喜びであり人生だ
歌の芸術は ご立派な名声家には呪縛されない
種はドイツ全土に蒔かれているのだ

芸術は自由だ
冷たい大理石の中や
鈍く死んだような神殿の中ではなく
清々しい樺の森の中をドイツの神は進みざわめく
(翻訳 当合唱団)

5. Shenandoah (アメリカ)

この曲は、19世紀初頭から歌われているアメリカ民謡で、その由来には諸説があります。ひとつは、西部へ渡った人たちが故郷バージニア州のシェナンドー河を懐かしんで歌ったもの、あるいは、入植者がアメリカン・インディアンの酋長の娘に恋をした歌ともいわれています。

おお シェナンドー河よ おまえに会いたい
そして おまえの流れる音を聞きたい
おお シェナンドー河よ おまえに会いたい
私たちは広いミズーリ河を横切り
おまえから離れていくのだ

おお シェナンドー河よ おまえと最後に会って
その流れる音を聞いて すでに7年も経った
私たちは広いミズーリ河を横切り
おまえから遠く離れていくのだ

(翻訳 当合唱団)

6. Annie Laurie (スコットランド)

マクスウェルトン家の令嬢アニー・ローリーは1682年生まれの実在の人物で、数多くの男性から求婚を受けるほどの美人でしたが、フィンランド家出身の詩人ウイリアム・ダグラスと恋に落ちます。しかし、二人は両親の政争の故に分かれざるを得なくなり、失意のダグラスがその熱い思いを綴ったのがこの詩です。1838年頃、スコットランドの音楽家ジョン・ダグラス・スコットがメロディをつけ、スコットランド民謡として世界中で愛唱されるようになりました。

マクスウェルトンの丘は美しく 朝露にぬれる
あの丘でアニー・ローリーは私に真実の愛をくれた
この愛を忘ることはできない
愛しいアニー・ローリーのためなら
私の命を捧げる 死ぬことすらいとわない

彼女の顔は雪のようで 彼女の首は白鳥のようだ
彼女はもっとも美しく 陽の光に満ちている
彼女の瞳は深い青色
愛しいアニー・ローリーのためなら
私の命を捧げる 死ぬことすらいとわない
(worldfolksong.comより引用)

7. Bengawan Solo (インドネシア)

インドネシアの伝統的大衆音楽クロンチョンの演奏者グサン・マルトハルトノが1940年に作詞作曲したものです。戦時中に日本兵たちの間で広く歌われ、戦後は日本語訳もついたこともあり、日本でも大ヒットしました。多くの山々に囲まれたソロ河の水源から海に注ぐまでのゆったりした情景と商人が舟で行き来する様子を描寫したものです。

ソロ河よ この歴史の中で古から我が心の母
乾季には水少なく雨季には水は遠くまで流れる

ソロ河よ お前の泪 幾千の山に囲まれ
水は遠くまで流れ ついには海へ
あれは船だ 古から商人はいつも その船に乗る
ソロ河よ

(翻訳 当合唱団)

8. U Boj (クロアチア)

イヴァン・ザイツによって1866年に作曲されたクロアチアの愛国歌で、1566年のクロアチア北部シゲトバルにおける欧州軍対トルコ軍の戦いを描いた曲です。3万人のトルコ軍に対し欧州軍はわずか3000人。多勢に無勢、しかし、欧州軍の将軍ニコラ・シュビッチ・ズリンスキは最後まで闘い、最後の300人になったときには門を開け、決死の攻撃であります。「U Boj U Boj」はそのときの闘の声です。1919年にシベリアから神戸に立ち寄ったチェコ兵が関西学院大学グリークラブに伝え、現在では多くの男声合唱団の愛唱歌となっています。

戦いへ 戦いへ さやから剣を抜け 兄弟よ
我々が如何に死ぬか敵に知らしめよ
我々の町はすで燃えており
その炎はここまで迫ってくる

我々は少数だ しかし勇敢だ
何者が我々を滅ぼせようか 死を 悪魔に死を
祖国のために死ぬ喜びよ
敵に向かえ 必ず奴らを滅ぼせ
(新月会の楽譜から引用)

ステージⅣ オペレッタの散歩道

創部90周年記念演奏会のお祝いとして、私たちの指揮者である小貫先生と坂井先生のお二人がオペレッタの名曲をプレゼントしてくださいます。オペレッタは、「小さいオペラ」あるいは「軽歌劇」などと訳される楽しいオペラです。このステージで歌っていただけた4曲も、皆様が聴いたことのある名曲ばかりです。お二人の素晴らしい歌唱を存分にお楽しみください。

1.『こうもり』より「公爵様、もっとよく見て」

1874年4月にウィーンで初演されたヨハン・シュトラウスⅡ作曲のオペレッタの傑作です。

舞台はオーストリアの温泉地イシュル、時は1874年の大晦日、裕福な男アイゼンシュタインに対して、彼の友人、妻、元恋人が一芝居を打つという喜劇です。この中で、主人公アイゼンシュタイン家の女中であるアデーレはオルロフスキー侯爵のパーティーに女優として出席します。そこでばったりアイゼンシュタインと出会い、「私の女中に似ている」との疑いをアデーレが笑って吹き飛ばす有名なアリアです。(日本語で歌います)

2.『微笑みの国』より「君こそ我が心のすべて」

1929年10月にベルリンで初演されたオペレッタで、ウィーンと北京を舞台としたフランツ・レハールの傑作とされています。リヒテンフェルス伯爵令嬢であるリーザは、美しく活発な娘でしたが、中国の外交官スー・チョン殿下に恋をし、彼とともに中国に渡ります。しかし、そこには様々なしきたりがあり、最後は中国を去るというストーリーです。オペレッタではありますが、悲劇的な面ももった抒情的な作品となっています。このステージでは、スー・チョン殿下がリーザに向かって歌う美しいアリアをお届けします。

君こそ我が心のすべて
君のない世界に僕は住めない
枯れ行く花のように
太陽の輝きのような口づけを求める
一番美しい歌はあなたのもの
恋心から咲きいづる花
いといしい人もう一度いって
君を愛していると
たとえ、どこにいっても
君を近くに感じる
君の息吹を吸い込み
足元にひれ伏したい
君だけを愛したい

すばらしい つややかな髪
美しい夢と淡いあこがれに
輝くひとみ その声は響く
心地よい音楽のように

3.『ウィーン気質』より「とても許せないわ」

このオペレッタは、ヨハン・シュトラウスⅡが自身の作品を集めたオペレッタを作ろうとしたもので、ヨハン・シュトラウスⅡの死後に、彼の友人の指揮者アドルフ・ミュラーが完成させたものです。

19世紀初頭のウィーンを舞台として、プロイセン出身の堅物だったツエドラウ伯爵と伯爵夫人、伯爵の友人の侯爵やお針子のペピを巻き込んだ恋の駆け引きを軽妙なタッチで描くオペレッタです。ツエドラウ伯爵は、すっかりウィーンの陽気に馴染んでいる様子で、今では別邸に愛人を住まわせています。そこに伯爵夫人が登場し嘘の言い訳のやり取りになります。しかし二人のやり取りはいつしかワルツく「ウィーン気質」に…。(日本語で歌います)

4.『メリーウィドウ』より「メリーウィドウ・ワルツ」

メリーウィドウは、作曲者のフランツ・レハール自身の指揮によって1905年12月にウィーンで初演され、連続500回以上も上演されたほどの人気作品となり、ウィーンのオペレッタの第2期のブーム「白銀時代」を迎えます。(ヨハン・シュトラウスⅡの時代は「黄金時代」と呼ばれています)

舞台はパリ、時は1905年。莫大な遺産を持つ未亡人のハンナと公使館の書記官ダニロは元恋人同士でしたが、身分の違いを理由に結婚できなかった二人です。ダニロは今や大金持ちになったハンナに対して意地を張ってしまい、彼女への思いを素直に伝えることができません。この曲は、紆余曲折の末にようやく愛を確認しつつある二人が歌う有名なメリーウィドウ・ワルツです。(日本語で歌います)

ステージV 男声合唱組曲「月光とピエロ」

作曲者清水脩(全日本合唱連盟第4代理事長)は1911年大阪に生まれ、1948年第1回全日本合唱コンクールの課題曲募集に応募するため作曲し、当選したのが「秋のピエロ」です。男声合唱組曲「月光とピエロ」の初演は、1949年に清水自身の指揮で東京男声合唱団によって行われています。

男声合唱組曲「月光とピエロ」は、堀口大學(1892年-1981年)の処女詩集「月光とピエロ」(1919年刊行)の冒頭に収められた「月光とピエロ」(全5篇)、および「EX-VOTO」(全7篇)から選ばれた5篇の詩で構成されています。堀口の「月光とピエロ」は、外交官だった父親の赴任地マドリードで知り合ったフランス人女性の許婚者の、波乱に満ちた生涯に着想を得て創作した作品とされていますが、それにしても清水は敗戦後間もない混乱期になぜこの作品を題材として選んだのでしょうか。その答えは、若杉弘指揮による日本合唱協会演奏の「月光とピエロ」に寄せられた「作曲者のことば」にあるように思われます。

◎作曲者のことば

「月光とピエロ」は、詩を読んでいただければわかるように、敗戦の混乱で、人々は明日の食料を求めてさまよい、絶望のうちに立っていた当時の人々に、意外の共感をよんだ。深い悩み、遂げられぬ恋、そして耐えがたい絶望感。ピエロはそれでも、異様な衣装に身を包み、真白く顔を塗りつぶし、こっけいな身振りと笑顔をつくり、舞台に立たなければならない。ピエロならずとも、人間はいつの時代でもこのような一面を持っているのではないか。ことに、青年のある時代にはこのような絶望感におそれないものはないのではないか。

(日本コロンビア「現代日本の音楽11」解説書[作曲者のことば]より一部転載)

1. 月夜

月の光の照る辻に
ピエロさびしく立ちにけり。
ピエロの姿白ければ 月の光に濡れにけり。
あたりしみじみ見まわせど
コロンビヌの影もなし。
あまりに事のかなしさに ピエロは涙ながしけり。

ピエロの顔は さびしかり!

ピエロは 月の光なり!
白くあかるく 見ゆれども
月の光は さびしかり!

2. 秋のピエロ

泣き笑いしてわがピエロ
秋じゃ! 秋じゃ! と歌うなり。
〇の形の口をして
秋じゃ! 秋じゃ! と歌うなり。
月のようなる白粉の 顔が涙を流すなり。
身すぎ世すぎの是非もなく
おどけたれどもわがピエロ
秋はしみじみ身に滲みて 真実なみだを流すなり。

4. ピエロの嘆き

かなしからずや身はピエロ、
やもめててなしご
月の孀の父無児!
月はみ空に身はここに、
身すぎ世すぎの泣き笑い!

5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット 踊りけり、
ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット 歌いけり、
ピエロ、ピエレット。
踊りけり、ピエロ、ピエレット。
歌いけり、ピエロ、ピエレット。
踊りけり、歌いけり、
ピエロ、ピエレット。

3. ピエロ

ピエロの白さ! 身のつらさ!
ピエロの顔は 真白け!
白くあかるく 見ゆれども



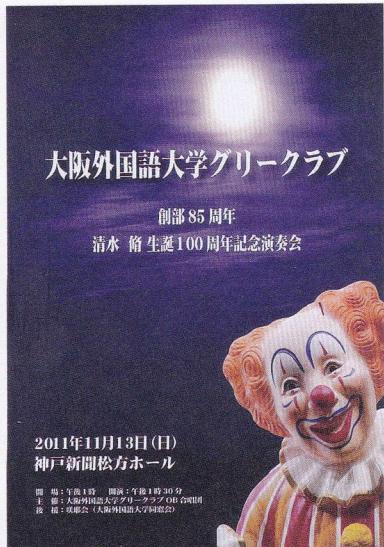
第20回定期演奏会(創部50周年記念演奏会) 指揮: 清水 倏

1976年12月18日 大阪府立青少年会館



創部85周年・清水 倏 生誕100周年記念演奏会

2011年11月13日 神戸新聞松方ホール



2011年11月13日(日)
神戸新聞松方ホール

開場:午後1時 開演:午後1時30分
主催:大阪外国语大学グリークラブOB会員会
後援:大阪外国语大学同窓会

同公演・パンフレット

90年のあゆみ

1921年創立の大阪外国语学校は、東京外国语学校ロシア語学科と東京帝国大学英文学科を卒業して27歳で就任した初代ロシア語学科教授で、気鋭の詩人であった松永信成による作詞と大阪音楽学校創立者の永井幸次による作曲の校歌に、設立の使命が見事に表象されている。歌詞冒頭の「世界をこめし戦雲ようやく晴れて 東の空に明けの明星一つ これぞ大阪外国语学校」と一般市民を巻き込む点で人類の歴史上初の悲惨な出来事であった第一次世界大戦が終わり「建てよ建てよ 平和の旗 叫べ叫べ愛の言葉 輝かせ文化の光」と訪れた平和と呼応する文化の担い手たらんとした母校の立ち位置をリフレインで強調している。

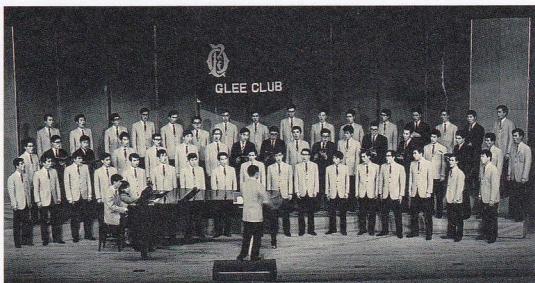
母校創立5年後の1926年創部のグリークラブは、歌詞の変更点は「学校」が第二次大戦後の学制改革で「大学」になっただけで、この校歌を90年間連綿と歌い続けてきた。グリークラブが生んだ音楽家も自身が指揮し歌ったはずである。戦前の卒業でフランス語学科に在学中にグリークラブの指揮者を務め、卒業後は更に東京音楽学校を卒業し、再び起きてしまった第二次世界大戦の戦火の荒廃からの文化的復興の原動力となった日本の合唱界で1986年に至るまでの長い間、作曲家・合唱指導者として活躍した清水脩をはじめとする人材が輩出した。清水以外の団員の多くは、卒業後にそれぞれの専攻語と深いかかわりを持つ職業に就いたが、卒業者名簿で各界での活躍の一端を知ることができる。

戦中はドイツ軍に従軍して「パリ入城記」、戦後は日曜版の「世界名作の旅」で知られる朝日新聞の名筆記者守山義雄、大学が男女共学になった初期にグリークラブが一時的に混声合唱団になったときの主要メンバーで、卒業後に評論家として活躍した俵萌子、近年では考古学を市井の人たちにも易しく解説してみせた国立歴史民俗博物館長だった佐原真など。

学生現役のグリークラブは、残念ながら1998年に無くなってしまったが、仕事を抱えながら、或いは社会人を卒業してから再びグリークラブに戻ってきた者たちにより、グリークラブOB合唱団は21世紀が始まる頃に結成され、伝統の灯を絶やさずに点し続けてきた。メンバーを徐々に増やしながら、今日の90周年記念の演奏会の日を迎えることができたわけである。



1959年



1968年



1974年



1991年

大阪外国語大学グリークラブおよびOB合唱団年譜(抜粋)

- 1926年 4月 創部。部員20数名。
6月 第1回公開音楽会開催(於:講堂)
- 1927年 11月 宝塚音楽協会主催第1回合唱演会開催(於:宝塚大劇場)、3位入選(学生団体では1位)
- 1929年 4月 クラブソング GAIGO WILL SHINE TONIGHT(「今宵外語は輝かん」)登場。
(注:第二次大戦中は公開プログラムでは歌われず。戦後復活。)
- 1938年 11月 関西学生合唱連盟第9回音楽会で優勝(団員44名)
- 1957年 7月 第1回定期演奏会
- 1973年 9月 林誠氏(大阪音楽大学教授)をヴォイストレーナーとして迎える。
- 1976年 12月 第20回定期演奏会(創部50周年記念演奏会)(於:大阪府立青少年会館)
(OB合同、清水脩指揮で「月光とピエロ」を演奏)
- 1987年 1月 第30回定期演奏会(創部60周年記念演奏会)(於:大阪府立労働センター)
- 1997年 1月 第40回定期演奏会(創部70周年記念演奏会)(於:フェスティバル・リサイタルホール)
- 1998年 1月 第41回定期演奏会(於:クレオ大阪西)。
部員が2名のみとなり、OBが集まり開催。以後現役グリークラブは休部となる。
- 1998年 9月 OB合唱団(東京)結成、林誠氏の指導を受ける。
- 2001年 5月 OB合唱団(大阪)結成。
- 2002年 7月 OB合唱団(東京)、小貫岩夫氏を指導者に迎える。
- 2003年 1月 OB合唱団ミニコンサート開催。
- 2003年 10月 OB合唱団(大阪)、林誠氏を再度指導者として迎える。
- 2006年 4月 グリークラブOB会(東京) 2006年演奏会(於:カスケードホール)
大阪外国語大学グリークラブ創部80周年記念演奏会(於:箕面市メイプルホール)
- 2007年 9月 「さよなら わが母校 大阪外大」に出演。(於:大阪外国語大学 箕面キャンパス)
- 2010年 4月 東西合同演奏会 in 東京(於:東京田町 建築会館)
- 2011年 11月 創部85周年・清水脩生誕100周年記念演奏会(於:神戸新聞松方ホール)
- 2012年 5月 清水脩生誕100周年記念演奏会 in 東京
100人で歌う男声合唱組曲「月光とピエロ」(於:銀座ヤマハホール)
- 2014年 6月 創部88年記念「ベージュ色のコンサート」(於:クレオ大阪中央)
- 2014年 11月 Autumn Joint Concert = 文京学院大学吹奏学部・大阪男声合唱団との
ジョイントコンサート(於:文京学院大学仁愛ホール)
- 2016年 11月 創部90周年記念演奏会大阪公演(於:大阪国際交流センター大ホール)

大阪男声合唱団

1954年大阪大学男声合唱団のOB合唱団として発足、1982年から活動を本格化し関西の国公立4大学(阪大、京大、神大、大阪市大)のOB男声合唱団と東大OBの関西支部合唱団からなる「五つのOB男声合唱の集い」演奏会に参加しました。1990年代の終わり頃から社会の現役を引退したOB達が戻り、2001年7月大阪にて第1回定期演奏会を開催しました。以降毎年定期演奏会を行ってきましたが、2007年からは5年間東京公演を実現しています。東京支部は2001年に関東在住のOBで結成し、2006年からは単独で「東京男声合唱フェスティバル」に出演しています。

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団とは2012年の大阪男声合唱団の定期演奏会で初めて合同演奏を実現しました。2016年10月現在の団員数は大阪40名、東京23名の63名です。

出演者

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団

| 第1テノール | 第2テノール | バリトン | バス |
|--------|--------|------|------|
| 石田康雄 | 若林 允 | 河盛龍三 | 村主寧民 |
| 伊東昭廣 | 紙谷敬治 | 小笠原肇 | 三神 徹 |
| 西村信勝 | 西沢毅彦 | 新出武雄 | 後藤勇治 |
| 板村哲也 | 赤城一宇 | 山野善生 | 森 滋 |
| 柳樂行雄 | 木下和夫 | 西川哲朗 | 大井耐三 |
| 五十嵐強 | 山本勝昭 | 岸田勝昭 | 梶江靖史 |
| 永谷 勉 | 鈴木惟司 | 木村秀彰 | 真鍋一史 |
| 石原 守 | 柳沢長四郎 | 山崎寿雄 | 南 雄次 |
| 片渕明広 | 加藤直樹 | 飯塚一雄 | 八木哲夫 |
| 北村照夫 | 佐藤行和 | 浜崎慎吾 | 樽井一仁 |
| 中津孝司 | 川崎博康 | 鵜飼 茂 | 上崎雅也 |
| 保川一治 | 池田民樹 | 河島靖夫 | 前田芳秀 |
| 坂居孝二 | 勝原尚美 | 楠本隆志 | 山内清之 |
| 戸田貴之 | 杉本啓一郎 | 岸本 保 | 山口 伸 |
| 岩崎隆優 | 小林卓郎 | 吉田 隆 | 秋山正樹 |
| | 森田朋宏 | 板倉正幸 | 松尾年展 |
| | 稻積和典 | 西山恭介 | |
| | 山田道教 | 松村尚人 | |
| | | 田中 透 | |
| | | 福田洋之 | |

大阪男声合唱団

| 第1テノール | 第2テノール | バリトン | バス |
|--------|--------|------|------|
| 国分和夫 | 宇野 肇 | 大野 喬 | 待山仁雄 |
| 丸谷隆一 | 富田義人 | 藤山 進 | 木戸啓喜 |
| 高木 保 | 江守茂和 | 福井 朗 | 山邊直基 |
| 吉識道明 | 本間真人 | 奥村秀策 | 高島志信 |
| 佐藤圭司 | 岡部寛正 | | 鈴木啓司 |
| 村田洋一 | | | 甲和伸樹 |
| 松本浩昭 | | | 石橋 博 |

賛助出演者 (50音順)

| 第1テノール | 第2テノール | バリトン | バス | |
|--------|--------|------|------|-------|
| 井上智晴 | 乾 栄司 | 遠藤英樹 | 浅川基男 | 新倉幸四郎 |
| 大山雄一郎 | 岩城孝次 | 高倉 勇 | 居島澄夫 | 東 博文 |
| 北野貴和 | 松本栄次 | 高原 肇 | 伊藤正昭 | 星田繁和 |
| 竹本鉄三 | 宮内隆造 | 藤崎景理 | 坂井昭則 | 宮崎靖人 |
| 橋田普治 | | 藤澤 哲 | 佐藤恒彦 | |
| 益子正穏 | | 松浦行男 | 鈴木大治 | |
| 宮元芳樹 | | 山城敬法 | 竹内克広 | |
| | | | 谷河義久 | |

賛助出演者所属団体 (50音順)

| | | |
|-----------------------|-----------|----------------|
| 慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団 | 男声合唱団フロイデ | マーキュリー・グリー・クラブ |
| 男声合唱団「タダタケを歌う会」 | 東京六甲男声合唱団 | メンネルコール広友会 |
| 男声合唱団ハートストリングス | 日商岩井コーラス部 | |

大阪外国語大学グリークラブ 創部90周年記念演奏会

大阪国際交流センター大ホール
2016年11月13日



大阪外国語大学グリークラブOB合唱団（東京）

練習日：第2土曜日午後（湊コミュニティルーム）

第4月曜日夜（東京聖テモテ教会）

指導：小貫岩夫、坂井美樹

問い合わせ先：西川哲朗 080-1402-2688

西村信勝 090-8583-2192



concert.gaigoglee90th@gmail.com (よろしければご感想をお聴かせください)